

平成29年3月10日付・山陰中央新報

戦争考察や松江観光テーマ

県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）の学生が考案する地域活性化策に対して、大学側が活動費を補助する「キラキラドリームプロジェクト」の活動報告会が9日、同大であった。戦争について外国人と勉強会を開いたメンバーと、松江市の

PR動画を作ったメンバーが支援を受け、成果を発表。勉強会は今後、サークルを立ち上げて取り組み、PR動画は松江城周辺の魅力をまとめた第1弾に続いて第2弾を制作中とし、ともに活動の継続、発展に意気込みを見せた。（岩井彩佳）

短大生の「夢」成果発表

活動成果を報告する田川志織さん（左）と吉田多麻希さん



昨年7月の審査会で、2団体は22万5千円の補助費を得る「ドリーム枠」に採択され、この日の発表会には岸本強副学長（60）ら5人の審査員を含む約20人が来場した。

総合文化学科1年の田川志織さん（19）と吉田多麻希

2団体 地域活性化へ活動継続誓う

さん（19）は、第2次世界大戦について外国人を交えた勉強会を企画し、日本や米

動画を制作中で、インターネットの動画サイトなどでPRするという。

国など5カ国の教科書で戦争についての扱い方を比較。広島県も訪れ各国の立場を考察した。

岸本副学長は「視点や立場を変えて考えるなどの経験をしたことは大きい。ぜひ今後も活動を発展させてほしい」と期待を込めた。

田川さんは「教科書が戦争の全てを伝えているわけ

ではない。自分で調べて学ぶことが大切」と強調し、2人で今後サークルを立ち上げ活動していくとした。

同科2年の近藤秀行さん（20）ら11人は、松江城のハート形の石垣や着物姿で塩見縄手を歩く場面など、松江城周辺の魅力を約40秒の映像に編集。予定より1分短い動画となり、近藤さんは「松江を知らない人の意見を取り入れる工夫が必要だった」と振り返った。現在、和菓子テーマにした

松江

出来上がった絵本を手にする「ゴーストみやげ研究所」の学生



「耳なし芳一」続き絵本に

八雲の世界読み解き創作

県立大短期大学部の学生5人

県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）の学生が、松江市ゆかりの文豪・小泉八雲（1850～1904）が手がけた怪談「耳なし芳一」の続きを創作して絵本にした。題名は「耳なし芳一リターンズ」。先輩が成し遂げられなかった思いを後輩5人が引き継ぎ、結実させた。15号四方のサイズで、色鉛筆の優しいタッチのイラストを添えており、15日、同大でお披露目した。（岩井彩佳）

絵本にしたのは、八雲の作品を広めるサークル「ゴーストみやげ研究所」の学生。怪談にちなんだまんじゅうや団子の土産物開発に続く第3弾の取り組みで、絵本をつくりたいという先輩の思いに込めた。お披露目会ではスクリーンに絵本を映し出しながら総合文化学科1年の須山慎司さん（20）が朗読。芳一が和尚を説得する時、会話では声を震わせながら読み、気持ちを込めた。

学生は八雲の原作に興味を持ってもらおうと、あえて物語のその後を創作。何度も原作を読み返し、八雲の世界観を読み解いた。監修した八雲のひ孫で同大の小泉凡教授（55）は「人間ではない亡霊の世界に戻ったところが八雲らしい終わり方」と太鼓判。同学科2年の河本亜由美さん（20）は「八雲だったらどう書くか考えた。この絵本を見て原作を手にとってもらいたい」とした。

絵本では、芳一は耳を奪われた後も平家物語を語る琵琶法師として活躍。一方で、涙を流してくれるまで平家の亡霊を感動させた高揚感を忘れられず、最後は平家の亡霊のための琵琶語りを生きたというストーリーにした。市内のデザイン会社の協力を得て百冊を制作し、値段は1冊648円。松江市玉湯町玉造の土産店などで販売する予定という。

松江

県立大短期大学部 3 学科 239 人新たな一歩



本田雄一学長（右）から卒業証書を受け取る学生

松江

県立大短期大学部の卒業式が16日、松江市浜乃木7丁目の同大であり、239人が晴れやかな姿で、思い

出の詰まった学びやを後にした。

卒業するのは健康栄養学科39人、保育学科52人、総合文化学科148人。式で学科別に卒業生二人

一人の名前が呼ばれると、学生は「はい」とりりしく返事をし、各学科の総代に本田雄一学長が卒業証書を手渡した。

本田学長は「地域社会への貢献を忘れず、国際的視野を持ちながら仕事や勉学を続けてほしい」と激励。

卒業生を代表した謝辞で健康栄養学科の山辺花穂さん(20)が、これまでの学生生活の名残を惜しみつつ、「短大での経験を糧に、支えてくれた人に恥じないよう前向きに歩む」と新たなスタートに力を込めた。

学生の7割は、県内の保育園や企業に就職する。

(岩井彩佳)

思い出胸に学びや巣立ち

県立大学について

【問い】県立大学の健康栄養学科が4年制化される際に大学院を設置すれば、地元産品を使った研究が進むなど期待できるが、考えを伺う。

【答え】健康栄養学科は平成30年に設置する山陰初の管理栄養士養成施設で、4年制化に伴い教員体制の充実を図る予定であり、食品の機能性研究や食味評価などで地域貢献が期待できる。大学院の設置については、教員と必要性や研究の内容などをよく相談し、県産品の高付加価値化に向けて考えていきたい。



紙上ブックトーク

皆さんには、人には言えない秘密、何かありますか？『かぞくのヒミツ』（イソール作、宇野和美訳、エイアールディー）に登場する女の子には、誰にも言えない秘密があります。それは、ママの正体がトゲトゲ頭のヤマアラシだということ！お

ひみつ



『文房具のやすみじかん』ほか

まけに、女の子の頭も、ヤマアラシみたいになってきているのです。家にいると不安になるため、女の子は、友だちの家へ泊まりに行くことに。

ところが、友だちの家族にも秘密があったのです。秘密を知った女の子は、急いでママを呼んで家に帰ることにしました。女の子がヤマアラシだと思ったのは、実はママの髪についた寝癖。ママのすごい寝癖にも、女の子の想像力にも、思わずくすっと笑ってしまいそう。友だちの家族の秘密が何だったのかは、絵本を開いて確かめてみてくださいね。

皆さんがいつも使っている文房具にも、秘密にしていることがあるようです。『文房具のやすみ

女の子や文房具が実は…

じかん』（土橋正文、小池壮太絵、福音館書店）に出てくる文房具たちは、男の子が出かけるとひそひそおしゃべりを始めます。

男の子がいない時間は、文房具たちの秘密の休み時間なのです。あれこれおしゃべりをしながら、ノートに落書きしたり消したりして遊ぶ、文房具たち。男の子が帰ってきたら、文房具たちの休み時間はおしまいです。

文房具たちはおしゃべりの中で、鉛筆などで書くことができる仕組みや、消しゴムなどで消すことができる仕組みを分かりやすく教えてくれます。文房具たちが、自分のいない間に遊んでいたら…なんて想像しながら読んでも良いですね。

夜、星を見上げているねこがいたら、そのねこには驚くような秘密があるかもしれません。その秘密は、『きみの町に星をみているねこはいないかい？』（えびなみつる著、架空社）の中にあります。

星の観察をしていた僕と博士は、湖に墜落した空飛ぶ円盤と5人の宇宙人を発見します。溺れている宇宙人たちを助けた僕と博士は、その正体を知ってびっくり。宇宙人は、ねこだったのです。円盤が湖に沈んでしまい、星へ帰れなくなったねこたちは、地球で暮らすことにしました。ねこたちが見上げている故郷の星は、どんな星なのでしょう？

この本を読んだら、一緒に暮らしているねこや近所でよく見かけるねこが星を見ていないか、観察したくなるかも。皆さんの近くに、星をみているねこはいないかい？

（内田絢子・島根県立大学短期大学部松江キャンパスおはなしレストランライブラリー司書）

松江

県立大短期大学部松江キャンパス（松江市浜乃木7丁目）の総合文化学科で学生たちが発行を続けた山陰の文化情報誌から、掲載写真をよりすぐってまとめた写真集「ほっこり田舎の

山陰どんぶり」が出版された。創刊から指導に当たった大塚茂教授(65)が3月末で退官するのを機に自費で手掛けた。地域の隠れた魅力に触れられる一冊になっている。（大迫由佳理）

県立大短大生発行情報誌掲載

指導の教授出版

月末退官を機に

1万枚超から厳選写真集



写真集「ほっこり田舎の山陰どんぶり」
を手にする大塚茂教授

基になった情報誌は「のんぶり雲」で、「普段は注目されない小さな文化」に学生が目を向けて取材や編集を行い、2006年から16年までに11冊発行した。大塚教授は学生を指導する傍ら、取材では撮影を担当。これまでに掲載した1万枚以上の写真から約300枚を厳選し、解説を添えて写真集に収めた。11冊で紹介した人や物、場所などを網羅している。お気に入りの1枚は、創

刊準備号（2006年）の特集「スローな文化を探して」に掲載した、水木しげるロード（境港市）にある辰巳屋商店の写真で、昔ながらの駄菓子屋の雰囲気「時代を感じさせる」という。第8号（14年）の特集「山陰ほのぼの食堂」で松江市や浜田市の個性的な飲食店を訪ねた際の写真は、学生と店主らの生き生きとした交流を伝えている。

大塚教授は「情報誌の発行は楽しく充実していた。時間と体力を注ぎ込んだ分、思い入れがある。地元の人に写真集を手にとってもらい、魅力の再発見につながるばうれしい」と話した。

写真集はA4判、123頁、1944円。山陰両県の主要書店で扱っている。